

E—1 肥満児に対する生活指導の研究

昭和女大家政 ○原田富士子
掛塚 芳子
梶塚 進

1. 肥満児に対する調査は多いが实际的指導のデータは少ないので、肥満児を本学学寮に集め、生活指導を行ない、規則的集団生活に順応させる可能性、栄養と体重との関係、運動能力の増進等を目的とした。

2. (1) 対象 肥満学童11名(男5名、女6名)

(2) 合宿期間 7月24日より8月6日まで2週間

(3) 場所 茅ヶ崎本学学寮

(4) 規則的集団生活の実践

(5) 低カロリー・高蛋白 高脂肪献立の作成と調理

(6) ダグラスバッグを用いて基礎代謝を測定

(7) 握力、柔軟度、サイドステップ、踏台昇降運動能力テスト

(8) フリッカー疲労度測定、タッピング、腱反射測定、色識別テスト

(9) 心理テスト(絵画・親子関係テスト)

3. (1) 一般に動作が緩慢で命令に対する反応が遅い。

(2) 肥満に対して無関心な者もあるが、劣等感をもつ者もある。

(3) 家庭における生活指導の不足を感じたので今後の指導の重要性が痛感される。

(4) 決められた食餌制限によく堪えたことは集団生活の効果である。